

平成30年度～令和2年度 第2回山梨県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和元年7月23日（火） 午後3時～4時50分
- 2 場 所 県立図書館 多目的ホール
- 3 出席者 （敬称略）
（委員） 長谷川千秋、青池恵津子、廣瀬敏夫、井上耕史、田中祐光、丹沢良治、西尾敏己、藤巻愛子、大藤愛子、鈴木信行、近藤裕子、藤森一浩
（事務局） 県立図書館：小尾副館長、塚脇次長、千野司書幹、奥秋総務企画課長、三澤資料情報課長、飯沼サービス課長
（社会教育課） 若尾課長補佐
（指定管理者） 金原支配人

- 4 会議に付した議案
 - （1）平成30年度運営の概要
 - （2）令和元年度事業について

- 5 議事の概要
 - （1）議長選出

事務局 「山梨県附属機関の設置に関する条例」第6条第1項に「会長が議長になる」旨、規定されている。ついては、長谷川会長に、議事進行をお願いします。

議長 次第により協議に入る。まず、「平成30年度運営の概要について」事務局から説明をお願いします。

事務局 「①平成30年度運営の概要について」、「②山梨県立図書館の基本的運営方針と評価項目・評価指標について」資料より説明。

議長 只今、「平成30年度運営の概要」について説明があった。何か質問、意見等があればお願いします。

委員 目標に対して数値が落ちている原因、要因は何か。落ちている割には、令和4年度の目標値が高いが大丈夫か。

事務局 原因については分析しているところである。大きくは、入館者数に関しては、非常に幅広い利用があり、主催事業として図書館独自で実施するものの他、場所として提供していろいろな団体の皆さんが実施してくださっている事業につい

ても、図書館の一括の事業として評価すべきものとして捉えている。連携の効果や場所のメリットが大きく高い数値を示しているなかで、PRがまだ足りていない、レファレンスサービスが認知されていない面がある。どんなサービスがあるか十分な説明がされていないというのがひとつの原因として考えられる。この辺が数値に表れていると思う。また、市町村立、学校図書館などに必要とするサービスが届いていないのではないか。県内図書館全体へのサービスが充分でないという反省がある。

目標値に関しては、順調に伸びている項目については現実的な高い目標を掲げて、落ちている項目については、ひとつは若干でも伸ばしていこうという目標を立てる。もう一つは、新館開館時に非常に高い数値を出している項目については、その数値に戻そうとしている。毎年毎年のなかで少しずつ上げていこうとしている。2割増しというような目標を掲げてもある。

委員 本の貸出しの対象は子どもさんが多いと思うが、今、少子化で減っているの
で、こういう現実では職員の努力だけではどうにもならないこともあると思うが、
借りている人の年代層などの分析はしているのか。

事務局 年代別の貸出数は、その時々では出るが、年齢まではうまく抽出できない。利
用状況では、児童書が貸出数の半数以上を占めている。前年度に比べると一般書、
児童書ともに減っている。資料の品揃えという面で少し要望に応じられていない
かもしれない。

委員 基本的な質問であるが、入館者数の調べ方はどのようにしているのか。

事務局 南北2カ所の入口にゲートがあり、ゲートを通った数となる。出たり入ったり
した数である。閲覧エリアとか、どこに何人入ったかは分からない。

委員 評価とか意見ではないが、同様な評価を実施している市立図書館として教えて
もらいたい。例えば、入館者数、貸出数、蔵書資料数などで私達も5年後の目標
を定めている。市町村立図書館にとって魅力的な研修はあるが、甲府まで毎回研
修に行けないことがある。市町村立図書館にとって、もう一度あったらいいなあ
と思う研修がある。それは、認知症の研修である。多様な利用者に対応していく
ので、今後とも同様の研修会を検討してもらいたい。貸出数の減少については、
少子高齢化で子どもの数が減っているのので、県立図書館のように児童書の貸し出
し数が半数を占めているような図書館では、当然貸し出し数の達成率が落ちてく
ると思う。

今後は、前年度に比べて単純に何パーセントの増減で計るより、例えば小学生
が何人いてそのうちのどれくらいが利用しているのかといった割合でないと計れな
いということをも自分達が現実に評価していて感じる。

あと、入館者数は毎年92万人超で高い利用がある。4年度の目標として92
万人なので、もう少し上げて良いのではないかと思う。

事務局 研修に関しては、なかなか県立図書館に来られないという話があるが、例えば、認知症に関するものなどは、外部の力を借りて出掛けていくということも考えられる。ご意見を踏まえながら見直していきたい。

委員 評価指標の考え方で質問させていただきたい。令和4年度の想定値は、平成29年度の実績値で5年後の想定という説明であるが、令和4年度を見越して単年度で切り分けて目標を設定しているのか、あるいは、累計して行って4年度でここまで到達するという見方もあるのか。また、現時点で達成率が高いものは100%を超えていて評価ランクが5で、達成率99.9%が評価ランク3というのは基準が分かりにくい。5年後で設定されているが4年間見直しをせずにかなり高い達成率を維持することを基本に、達成率が厳しいものについては現時点で4年度の目標値をあくまでも目指していくということか。年度途中で目標の見直しはしないのか。

事務局 5年後の目標値設定については、ほとんどの項目で現時点を想定して段階的に5年間かけていくという考え方である。ただ項目によっては、始めたばかりの事業については周知を図りながらということもあるので、個々の状況に応じて若干、想定値の見直しは皆さんのご意見をいただきながら毎年行っていく。評価ランクについては、1～5ランクあり、一番低い1は、目標水準を大きく下回った数値になる。これは80%を下回る場合で、一番高いランク5は目標水準を上回る成果を上げたという評価で110%以上。ランク3は目標水準を達成したという評価で90%～100%。前後100%～110%、80%～90%という刻みになっている。最初に評価指標を設定する時に他県の評価例などを参考にしている。若干、項目によっては、ちょっとした数値の違いで非常に大きな数値が出てきてしまっている項目があるが、この辺は目標値を変えながら進めていきたいと考えている。

委員 先日、「ニューヨーク公共図書館」という映画を観たが、その中で「図書館は本の置場ではなく人である」という言葉があった。市町村立の学校では、正規の司書が減ってきて研修に参加することもままならないところがある。遠くに出てこれないという状況がある。

地域のための研究をしたりアーカイブをしたり、郷土資料を使っての研究の成果を県民に広く知らしめていくという講座、企画などが今後どうなのか。

多様性の話だが、いよいよ外国人の労働者が入ってくると、言語の障害がある利用者ということになると思うが、外国人のためのサービスが今後どうなっていくのか。

事務局 市町村図書館でも、外に出て研修を受けるのが難しいという状況がある。これは人数の問題もあり、サービス時間に比較して人数が少ないこともある。これは県立図書館も苦しいところである。出前のような講座、研修をしてもらえないかという要望があるが、これは、是非やっていきたいと考えている。メニューを用

意してサービスするというところまでは進んでいないが、人のやりくりをしながら、学校でも市町村でも要望があれば、相談してもらえれば協力していきたい。例えば、近隣の学校に対してブロック単位で研修を行うとか。

図書館の資源を地域に還元するということであるが、今、具体的にはないが、外部のいろいろな専門の皆様のお力を借りてある程度実現しつつあるものとしては、子育て支援団体と連携したイベントでは資料を紹介したりしている。また、この図書館を利用してその成果をこの図書館で発表していただきたい。そういう活動の支援もしていきたいと考えている。

外国人に対しては、基本的なサービスは従来からあるが、ひとつは絵本で多言語の資料があるのでそれをもっとうまく活用できないかと思っている。あとはボランティアさんを通して外国人とのつながりを作ってもらっているのも、そこから広げられないかと思っている。また、金田一館長は、外国人の方へのサービスに積極的に取り組むことを考えているので、館長の意向を聞きながら今後検討していきたい。

議長 次に「令和元年度事業について」事務局から説明をお願いします。

事務局 「①年間行事予定」、「②金田一館長関係」、「③資料収集・管理について」、「④サービスについて」、「⑤交流・連携事業について」、「⑥「やまなし読書活動促進事業」について」資料より説明。

議長 只今、「令和元年度の事業について」説明があった。何か質問、意見等があればお願いします。

委員 年間計画カレンダーに掲載されている行事、イベントは、主催、共催等の形で実施されているかと思うがこれは申し込みがあってそれを受けるのか、どういう形で決定して実施されるものなのかどうか。その辺のシステムを確認したい。

事務局 主催のものはもちろん図書館が自ら企画して実施するものであるが、共催については、こちらから開館当初にかなり話をして続いているものである。新たに申し出があった場合は、館内で検討の上、相談しながら進めている。

委員 これらのイベントは、かなりの数があってその中から選ばれたものなのか。勝手な見方をさせてもらうと、これだけのスペースがありカレンダーを見てもまだ空いている日にちがあるようだが。もっと沢山共催の申し込みがあって取捨選択されるようなことはあるのか。

事務局 現在、それほど共催の申し出はなく、時々、少し話があるくらいである。年間にこれだけの回数をこなしていくことは大変であるが、申し出があれば検討させていただく。

委員 全体の感想であるが、職員の方の研修がままならないということですのでごく心配である。正規職員が減ってきて非常勤の方が増える傾向であるということだが、教育はとても大事で少子化といっても幼児教育、学校教育も大事だが、図書館職員の教育にも力を入れてもらいたいのので、できるだけ正規職員を減らさず増やす方向でやっていただきたいというのが要望である。

宣伝させていただくと、私どものNPO法人では、町歩きのガイドブックを作っている。現在、1階のスペースで英和の同窓生の資料展示室があり、そのガイドブック作りを手伝っている。お帰りの際時間があったら寄っていただきたい。

事務局 職員については特に正規職員が減っているということはないが、ただ、入館者が非常に多いというなかで、直接の来館者に対応する業務の比重が多くなってきていて、資料整理や市町村図書館サービスなど目に見えない部分の業務が圧迫されることが課題になっている。

「NPO法人つなぐ」様には、いつも図書館の資料を使用してもらいありがたい。

委員 指定管理者主催事業の内容について、どのように企画しているのか。

事務局 事業の内容については、賑わいの創出をするというミッションが与えられているので、それに基づいて幅広い年代の方に楽しんでもらえるよう内容を企画して社会教育課に提案し、図書館の承認を得てから実施している。内容は比較的自由にさせてもらっている。今は連携という意味ではイベントの内容に沿った関連書籍を展示するなど、図書・資料の貸し出しの促進に繋がるよう努力している。

委員 主催、共催事業について、年間これだけのものをこの良い立地で実施しているというのはお金に換算すると大変なものである。ただ管理をするのが大変だということであるが、これを管理できるようなしくみづくりを考えて、365日施設が塞がっているというような企画づくりを考えれば、来館者が100万人を超える図書館になる。

事務局 限られたスタッフ、経費のなかで施設の活用、賑わいの創出ということで外部の力を借りながらいろいろな人を呼び込むことで共催事業に積極的に取り組んでいる。大変ではあるがなるべく外部の方々と連携しながら、進めていきたいと考えている。

委員 例えば、人の問題、予算の問題とかあれば、やる方たちに当然費用を出してもらおうとか解決方法は沢山あると思うので、是非、問題があれば教えていただければ解決するよう方策を練るのでよろしく願います。

議長 強力なバックアップであると思う。ニーズなどを分析して、どんなことがあるなら図書館に来たいのか意見を聞いたら良いと思う。

他に質問、意見等あるか。

ご意見を十分に頂いた。なければこれで協議事項を終了させていただく。

「その他」ということで、委員の皆様から何かあるか。なければ、事務局から連絡事項はあるか。

事務局 第3回協議会は、令和元年11月中旬から下旬を予定している。次回も出席をよろしく願います。

議長 それでは、これで本日の議事は終了した。これをもって、議長の任を解かせていただく。ご協力に感謝する。